

## 21 成人術後腸閉塞症発症後7日以上経過してから高気圧酸素治療を行われた症例の解析とその治療法としての意義

安蒜 聡<sup>1)2)</sup> 古山信明<sup>1)</sup> 青野光夫<sup>1)3)</sup>  
大塚博明<sup>1)</sup> 鈴木卓二<sup>1)</sup> 宮崎 勝<sup>2)</sup>  
落合武徳<sup>4)</sup> 木原真紀<sup>5)</sup> 関谷宗英<sup>5)</sup>

- 1) 千葉大学医学部附属病院手術部
- 2) 千葉大学大学院臓器制御外科
- 3) 千葉大学医学部附属病院麻酔科
- 4) 千葉大学大学院先端応用外科
- 5) 同 生殖機能病態学同生殖機能病態学

【はじめに】腸閉塞症に対する保存的治療法の1つに高気圧酸素(HBO)治療があるが、この治療手技は腸閉塞発症後どの程度経過してからでも治療効果を発揮し得るのかは不明である。

【対象と方法】対象はHBO治療を行った postoperative paralytic ileus (PPI) 208症例、ならびにadhesive intestinal obstruction (AIO) 540症例で合計748症例(615患者)である。これらの症例を腸閉塞症発症から7日未満と7日以上経過してから初めてHBO治療を施行された症例についての解析を行った。

### 【結果】

1. 腸閉塞発症から7日以上(n=70)と7日未満(n=678)経過してからHBO治療を施行された症例の奏効率はそれぞれ82%(中止症例除くと86%), 88%(同91%)であった。

2. PPI症例において発症後7日以上(n=16), 7日未満(n=192)の奏効率はそれぞれ全体で81%(同100%), 94%(同97%)であった。

3. AIO症例において発症後7日以上(n=54), 7日未満(n=486)の奏効率はそれぞれ全体で82%(同83%), 86%(同87%)であった。

4. 発症後7日以上経過してから初めてHBO治療を施行された症例のうちHBO無効で手術となった症例は9例あり、HBO治療回数1-17回(中央値4回)、HBO治療開始後3-26日(同5日)に手術を施行されており、全例軽快退院した。

5. HBO治療有効例、無効例の間に75歳以上の高齢者の占める割合に差はみられなかった。

【結語】通常では手術を考慮すべき発症後7日無改善状態の腸閉塞症患者であっても、HBO治療は7日未満とほぼ同等の効果を示した。高齢者などのできれば手術を回避したい患者や手術拒否患者などに特にその治療手技としての意義があるものと考えられた。

## 22 難治性潰瘍に対する高気圧酸素治療

高尾勝浩 川島真人 田村裕昭 永芳郁文  
山口 喬

(医療法人玄真堂 川島整形外科病院)

【目的】難治性潰瘍の成因は様々であり、治療に難渋することが多いのは誰しも日常診療上感じるところである。我々は補助療法として、低酸素病変の改善と損傷組織の修復、感染の抑制を目的に高気圧酸素治療(以下、HBO)を行ったので報告する。

【対象】1981年から2003年の期間、褥創を除いた難治性潰瘍に対してHBOを行った症例は、男性128例、女性52例、計180例であった。年齢は、9歳から89歳まで、平均60.9歳であった。

原因別では、閉塞性動脈硬化症46例、バージャー氏病12例、他の血行障害26例、糖尿病59例、熱傷9例、外傷26例、放射線照射2例であった。

発症部位は、顔面2例、胸部1例、腰部2例、臀部2例、前腕部2例、手部13例、大腿部3例、膝関節部3例、下腿部34例、足関節部4例、足部137例であった。

【方法】第二種高気圧治療装置(中村鐵工所製)を用いて、2絶対気圧まで加圧しフェイスマスクにて純酸素吸入を60分間行い、30回を1クールとした。

HBOに併行して、抗菌剤の投与、プロスタグランジン製剤(リポPGE1製剤など)の点滴静注などの薬剤療法、洗浄と徹底したデブリドマンなどの外科的処置を行った。

【結果】治療成績は次のように分類し、部位毎に評価した。

良:創の治癒が得られたもの

可:創の50%以上の縮小を認めたもの

不可:創の縮小率が50%未満または切断に至ったもの  
全203例の治療成績は、良148部位(72.9%), 可27部位(13.3%), 不可28部位(13.8%)であった。

創傷治癒環境の改善効果が期待されるHBOは、難治性潰瘍の補助的治療手段として有効な方法であると考える。